

気軽に お散歩 横須賀 神奈川

横須賀市は横浜市と隣り合い、人口約40万人。幕末には市南部の浦賀港に黒船が来航した。戦時中は日本海軍の拠点としての役割を果たし、戦後には自衛隊や米軍の駐留地となった。

JR横須賀駅から港へ向かい、三笠公園に入る。この公園には戦艦「三笠」が保存されている他、音楽に合わせて動く噴水があり、日本の都市公園100選にも選ばれている。目の前には港の眺めが広がり、東京湾唯一の自然島・猿島も見える。

「三笠」は明治35(1902)年に建造され、日露戦争の日本海海戦の勝利に大きく貢献した当時最新鋭の戦艦。大正15(1926)年に記念艦として保存されることとなり、修復工事を経て公開された。船内には当時使用されていた軍服や主機関の設計図が展示されている。また、士官室や長官公室、デッキには砲台が再現されており、100年以上前に建造されたと信じられないほど重厚な造り。

「三笠」の迫りに圧倒されたところで、横須賀の名物・海軍カレーを食べてみることに。海軍カレーは、かつて日本海軍で出されていたカレーを再現したもので、甘めの優しい味わいが特徴。にんじんやじゃがいもが細かく切られているので、食べやすい。

続いて、市街地から少し離れて観音崎公園に向かうことに。観音崎は元々、東京湾警備のための船見番所が設置されたことを機に整備が始まった。園内には戦没船員の碑が設置され、毎年5月に開催される、戦没・殉職船員追悼式の会場でもある。

公園に入り、左に海を見ながら歩く。波の音がリズムカルに聞こえ、東京湾を走る大小さまざまな船が見える。その向こうには、うすく房総半島が見え、意外と近いことに驚く。

少し歩くと、右手に大きな洞窟が。手前に柵があるため、残念ながら近づくことができないが、滴る水と中の暗闇が神秘的な雰囲気。奈良時代に行基という僧が船の安全のために船守観音をまつたとされており、それが観音崎の名の由来にもなったとのこと。

洞窟の中を見てみたい気持ちを抑え、再び歩を進めると、「観音崎灯台」の看板が。階段を10分ほど登ると、急に視界が開け、手前に白い灯台、奥に東京湾の青が広がる。観音崎灯台は、明治元(1868)年に完成した日本初の洋式灯台。関東大震災により崩壊し、現在の灯台は大正14(1925)年にできた三代目。眼下には船がひっきりなしに往来し、灯台が山の上からそれを見守っているように見える。

昔も今も船との結び付きが強い横須賀。東京湾の眺めをゆっくりと楽しむためにも、天気の良い日に歩いてみてほしい。

「海員だより」